

第3回地域キャリア教育支援協議会

第3回地域キャリア教育支援協議会 タイムライン

- | | |
|----------------------|--|
| 15時00分～15時10分 | 前回の振り返りと、本日のゴールの確認 |
| 15時10分～15時20分 | 視察報告①（山本校長先生より） |
| 15時20分～15時30分 | 視察報告②（木村校長先生より） |
| 15時30分～15時40分 | 教育支援協会による昨年度の活動紹介（奥田さんより） |
| 15時40分～15時50分 | 方向性①～③とプログラムの方向性についての説明（田中より） |
| 15時50分～16時50分 | 30分×2クール ポスターセッションにて
キーマッセージと、プログラム案の中身検討（全体熟議） |
| 16時50分～17時00分 | 来年度以降の方向性について（後明さんより） |

支援協議会設置の目的

1. 横浜の子どもたちの豊かな学びや、より質の高い「自分づくり教育」を実現していくため

- 「横浜市キャリア教育推進プログラム」の作成、配布による企業への啓発活動強化
⇒ 学校と企業との協働が進みやすいモデル事例、協働ステップ、等の情報発信

2. 学校の「協力してほしい」、企業の「協力したい」の相互理解不足を減らしていくため

- 「キャリア教育に関わる教育活動へ協力いただける企業一覧」のブラッシュアップ、数の充実化
⇒ 学校への情報提供充実により、学校負担の軽減へ

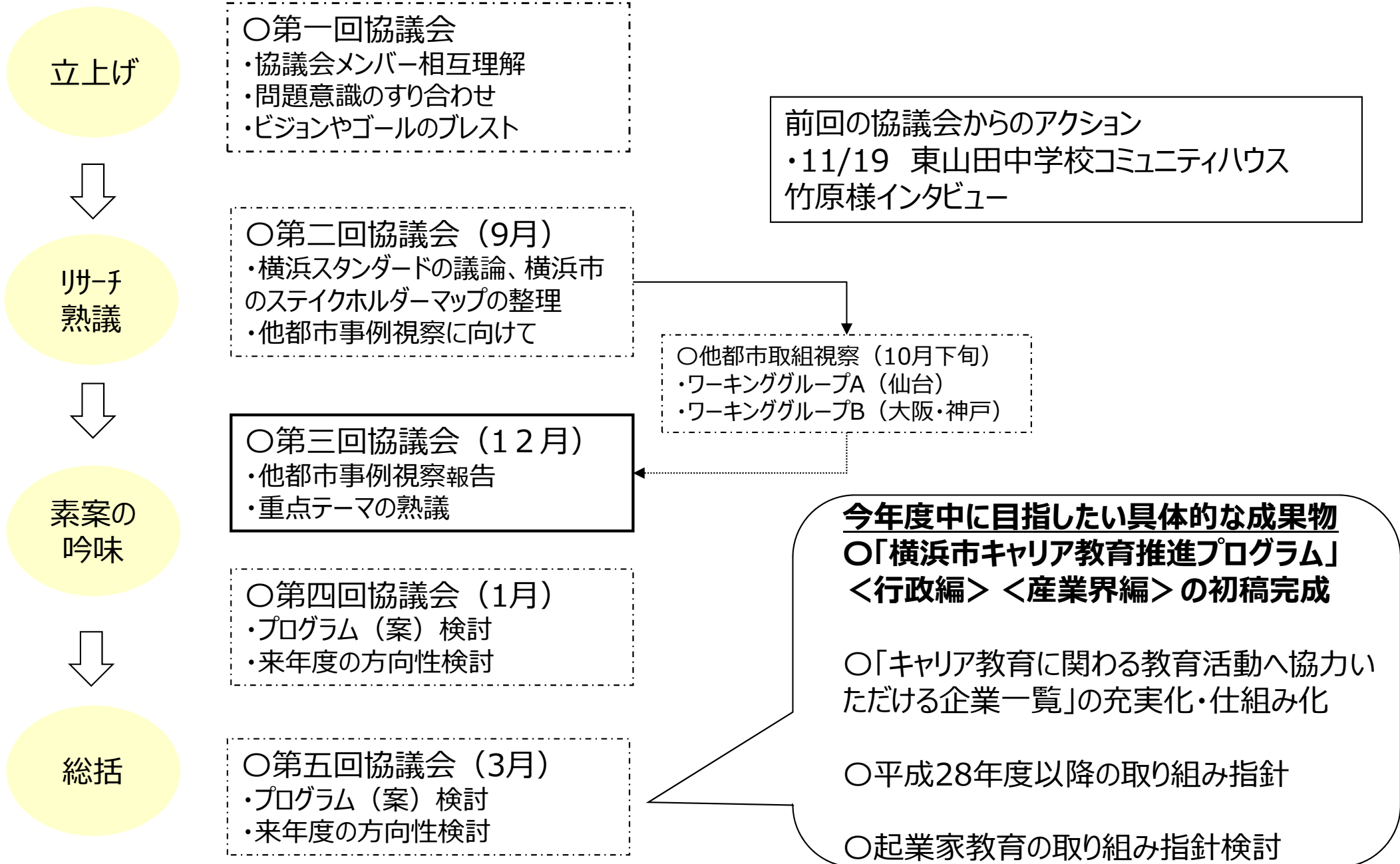
3. 未来にわたって継続していける、横浜らしい産・学連携の仕組みを構築していくため

- 学校・地域コーディネーターや、教育委員会、産業界等が、うまく情報共有 & 機能し合えるインフラの検討

上記目的達成のために、議事運営の上でのグランドルール

肩書や役職を（なるべく）外して、率直に意見を言い合う場作りを！

今回の協議会の大まかなスケジュール（案）



前回は3グループに分かれた集中討議！を行いました

前回の議論を前提に、より具体的 & 集中的な議論を通して、「産業界へのメッセージ」や今後の指針に生かしていく場

テーマ1

企業と学校が考える

キャリア教育で育てたい子どもの姿

- ・各成長段階別（低学年/高学年/中学生/高校生）でどのような子どもたちを育てたいか。
- ・上記をどのように企業や地域とコミュニケーションして理解してもらうか。
- ・校種をつなぐことの効能や企業との接点を持つ際の注意点

メンバー

◎森川さん

奥田さん・金子さん・福田さん

テーマ2

キャリア教育で重要な、中学生の「職場体験」の理想の流れを考える

- ・事前準備、事後学習のあり方
- ・標準的な流れ案
- ・良い職場体験の条件とは？
- ・質の高い職場体験を横浜に増やしていくために学校や企業が留意すべき点や、企業への伝え方のポイントは？

メンバー

◎江森さん

木村さん・村上さん・三宅さん

テーマ3

企業をはじめ、社会全体を巻き込むための具体的な方策、100本。

- ・企業の参加を促すには？
- ・地域コーディネーターや4方面事務所の協力をどう得ていくか。
- ・学校の負担軽減のための仕組み
- ・取組を継続させていくために必要な資金や、組織体制等の検討

メンバー

◎岡部さん

今宮さん・梅澤さん・山本さん

視察報告

仙台視察メンバー(敬称略)

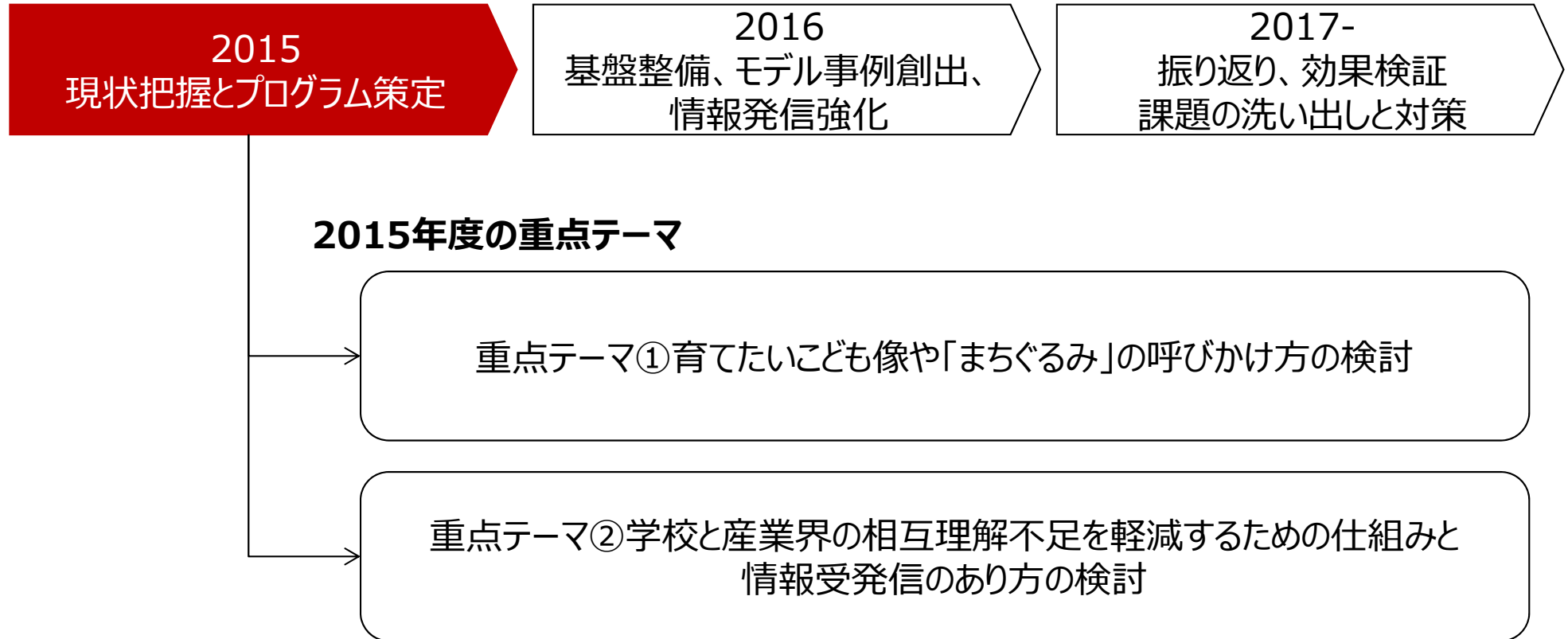
- 森川 智之(横浜市PTA連絡協議会 会長)
- 村上 弘一(横浜市商店街総連合会 副会長)
- 山本 朝彦(横浜市立西が岡小学校 校長)
- ・緒方 克行(横浜市教育委員会事務局指導部指導企画課首席指導主事)
- ・三橋 弘康(横浜市教育委員会事務局指導部指導企画課指導主事)
- ・腰塚 志乃(NPO法人ETIC. 【※】横浜ランチコーディネーター)

関西視察メンバー(敬称略)

- 江森 克治(横浜スタンダード推進協議会 理事長)
- 岡部 祥司(NPO ハマのトウダイ 共同代表)
- 奥田 宏明(NPO 教育支援協会 地域教育事業 フリースペースみなみ運営担当)
- 長島 由佳(横浜市教育委員会教育委員)
- 木村 奨 (横浜市立港中学校 校長)
- ・後明 好美(横浜市教育委員会事務局指導部指導企画課主任指導主事)
- ・田中 多恵(ETIC. 横浜ランチ マネージャー)

協議会の全体方針の振り返り

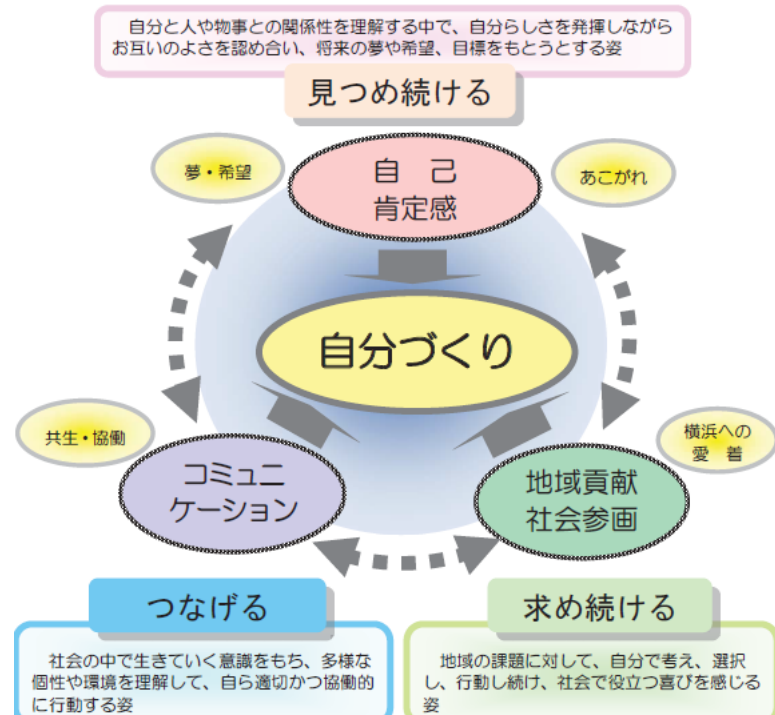
- ・初年度となる今年は、現状認識のすり合わせをしつつ、「プログラム」の策定を行うことがゴール



方向性① 「キャリア教育」⇒地域とともに推進する「自分づくり教育」へ。

これまでの議論

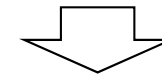
- 「キャリア教育」には狭義の職業選択のイメージが付きまとい、正しい認識が広がりにくい。
 - これまでも、「環境教育」「福祉教育」等、様々な「〇〇教育」が推進されてきており、その内の1つとしてしか認識されていない現状がある。
- ⇔本来は学ぶ意欲が高まり他の学習にも好影響を及ぼす取組のはずが、意図せず、学校に負担感を与えている！？



参考：昨年度策定の「自分づくり教育」紹介資料より抜粋

これから（案）

- 「自分づくり教育」をあらゆる「〇〇教育」の上位概念におき、**自己肯定感を土台として夢や希望、目標を持った子どもを育てるために必要なあらゆる教育**をさすと、定義する。
- 学校だけで抱え込まずに、地域の力を借りながら「ここまでは推進してほしい」というガイドラインを示す。



例：「自分づくり教育」を推進していくには、学校だけでなく地域社会の参画が不可欠。

【「自分づくり教育」充実のためのポイント】

- 異世代や多様な価値観との出会い
- 地域課題への問題意識を育むきっかけ作り
- 正解がない中で意思決定が必要な場面との遭遇
- 成功体験や人から感謝される体験



「自分づくり教育」の重要性を、地域社会にわかりやすい形で発信していく必要がある。
（今回のプログラム発行の目的）

方向性②「自分づくり教育」のビジョンを豊かに発信して地域を巻き込む

これまでの議論

- 横浜の地域社会全体が、「自分づくり教育」に参画する大義やキーメッセージのようなものが必要。
- 企業側の協カメリットや具体的にどう学校とつながっていけばよいのかについて、積極的に周知していく必要がある。

これから（案）

- キーメッセージについては本協議会で継続議論。
- 情報発信については、ひとまず年度末までに、横浜市教育委員会のHP内に「キャリア教育の広場」ページを設置（予定）。本協議会での議論の経過や、アウトプットを順次掲載していく

※横浜の地域社会全体が、「自分づくり教育」の重要性に気付き、アクションをおこしていくためのキーメッセージ、キャッチコピー案

案1：「ハマプラ」宣言 = ヨコハマ・プライド …シビックプライドという言葉にヒントを得て着想。

案2：「横浜は、未来の開拓者たちの学び舎だ」。…横浜の進取の精神をヒントに着想。

案3：「自分づくり教育 ハマッ子未来応援団」…まちぐるみで取り組むことを強調する言葉。

↔上記の案全てに副題として ～地域ぐるみで取り組む自分づくり教育のススメ～というような言葉が入る。

方向性③「自分づくり教育」の情報受発信の機能を、各組織に位置づける

これまでの議論

- 横浜は広大であるため、地域性の異なる各学校の自主性にある程度委ねるべき。
- 同様に企業についても、市全体を商圈とする大企業から、地域に根差した中小企業・商店街まで様々な規模、業態の企業がある。
- これまで学校の協力してほしい、と企業の協力したい、にミスマッチがあった。どのように解消できるか。

学校側	企業側
<ul style="list-style-type: none"> •学校によっては会社見学や、職場体験等の受け入れ先開拓に苦戦。 •企業とのコミュニケーションに慣れておらず継続的な関係性作りに困難。 	<ul style="list-style-type: none"> •学校への協力の必要性を認識していない。 •協力したいと思ってもどうしたらいいかわからない。 •子どもの発達の理解が弱くプログラム開発が未熟。

これから（最大限の可能性）

組織	役割（案）
教育委員会	市全体での取り組み情報発信、大企業等の案件管理
4方面事務所	方面ごとの課題の把握、学校と企業のコミュニケーション促進支援
区民活動サポートセンター コミュニティハウス	情報受発信のハブとなり 企業の情報をストックして学校に提供。
学校・地域コーディネーター	学区における情報収集と学校支援
本協議会	社会の巻き込みについて継続的に検討、基盤整備&環境整備、情報発信
企業団体等	会員への情報提供、協力要請

⇒特に、協力企業や職場体験についての情報は、タイムリーに情報共有が図れるプラットフォームやデータベースの整備が望まれる。

全体熟議Ⅰ 「まちぐるみ」呼びかけの肝となるキーメッセージについて

全体熟議Ⅱ プログラムの全体構成や書かれている内容について

考えるべき観点

- ・市民（企業、商店街、保護者、地域社会等）が一体感をもって「自分づくり教育」に取り組もうという機運作りにつながるか。
- ・他にはない、横浜らしさが現れているか。
- ・これまで議論してきた、想いや要素が入っているか？

【賛成意見】

- ・●●だから賛成

【反対意見】

- ・●●だから反対

【提案】

- ・●●だから●●に変えては？
- ・●●の要素も入るとさらにGOOD

この時間の進め方

- ・7分間、シンキングタイム（手元のポストイットにそれぞれの方のご意見をお書きください）
↓
- ・ポスターセッション（前方のホワイトボードにみなさんの意見を張り出しつつ、意見交換）

(参考) プログラム発行の概要

■ プログラム策定の目的

「自分づくり教育」を推進していくには、学校だけでなく地域社会の参画が不可欠。

学校、企業や商店街、保護者や地域社会、行政が共通認識を持つためのガイドラインを発行する。

■ 発行予定の印刷物 カラー刷り6ページ

600部（当初予定予算）

■ 発行主体：横浜市地域キャリア教育支援協議会

■ 配布先（案）

市内各学校510校/4方面事務所や教育委員会等 50部/コミュニティハウス/全区民活動支援センター18区/キャリア教育団体
市民活動団体等/区役所 地域振興課学校連携担当18区 等、優先順位を決めて配布。

⇒初版発行後、PDFをHP等で公開。

■ プログラムの内容については別紙参照